

両国編

まちにミニダムをつくり、 雨水活用しよう！



ためる ~雨水タンクはどこにある？



② 江戸東京博物館	2,500 m ³
③ 両国国技館	1,000 m ³
⑪ 国際ファッションセンター	300 m ³
⑰ 両国屋内プール	220 m ³
⊙ 区立両国中学校	54 m ³
合計	4,074 m³

※数字は区内のタンク容量順位

墨田区全体
雨水タンク総容量
約 26,000 m³

横網一丁目エリア
16%

墨田区横網一丁目エリアの 大きな雨水タンク

墨田区発行「雨水利用ガイド&マップ」より抜粋

活かす ~雨水を使って打ち水

2023/8/3
両国駅広小路
にて



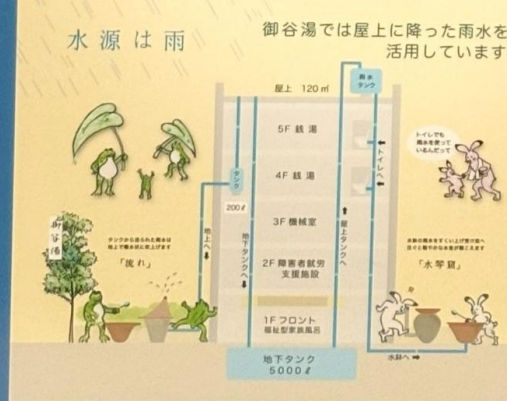
地表温度が10度以上、下がった！

写真提供：墨田区役所 関係団体：墨田区役所、両国協会の会、石橋旭

実践 ~まちの身近な雨水活用



手作り雨水タンク講習会
雨水タンクは手作りでき、つ
なげて使えばたくさんためら
れます。 作り方⇒



みこくゆ 雨水でまちに貢献！ 御谷湯

墨田区石原の御谷湯では、雨水をタンクにためてトイレの洗浄に使っています。店主の伊藤林さんはまちの皆さんに雨水で楽しんでもらう仕掛けを作りました。



(左) 左の壁から水を汲むと右のピラミッド先端から雨水が噴き出し、壁に流れこむ
(右) 埋め込まれた壁に、柄杓で雨水を注いでしずくが奏でる音を楽しむ水琴窟



雨水市民の会
People for Rainwater





雨水市民の会
People for Rainwater

流せば洪水、ためれば資源 雨水活用で災害に強いまちづくりを

雨水市民の会は、約40年前に東京・墨田区で大雨による浸水が頻発したことをきっかけに、雨水をためてゆっくり流し、蓄えた雨は水資源として利用しようと、1995年に活動を始めました。
川と水路に囲まれ、ゼロメートル地帯にある墨田区は、普段は下水道や川の堤防で守られていますが、想定以上の降雨では洪水になる危険性があります。近年、集中豪雨の頻度が増える傾向にあり、その脅威は高まっています。区内では、洪水や災害に備え、雨水貯留槽約760基、総容量にして約26,000m³を設置し、まちのミニダムとなっています(2022年3月末)。普段は植木の水やりやトイレの流し水などに使っています。平時に使用し、設備・水量・水質などを把握することで非常時の備えとなります。雨は、地球上の生命の源です。私たちの生活にもみどりや潤いを与えてくれます。雨に感謝し、雨水活用で災害に備えるまちづくりを進めたいと考えています。

雨水市民の会の活動

雨を知る・極める

- 手作り雨水タンク製作講座
- 雨水タンクの水質調査

行政・民間団体等との連携

- 視察・研修
- 講座・出前授業

雨を楽しむ・発信する

- Webあまみず情報発信
- 「雨つぶぐるぐるすごろく」の販売
- 雨水打ち水大作戦

提言・ネットワーク

- 雨水ネットワークへの参画
- 雨水活用に関する法律の推進に協力



雨水水質調査



雨つぶぐるぐるすごろく



雨水で打ち水(御谷瀧)



中学生向け視察ガイド



雨水ネットワーク オンライン全国大会

NEW! 2022-2025

下町 × 雨・みどりプロジェクト

Rain & Green Community
Design and implementation of the alternative rainwater cycle through NbS approach in downtown Tokyo



NbS(Nature-based Solutions= 自然を基盤にした解決策)を取り入れて、都会の暮らしの中に雨とみどりの循環をつくり出す取り組みです。

- 墨田区内の雨水貯留施設および利用状況の実態調査
- 雨どいプランターなど地域に適したNbS手法の開発・モデル実施
- 洪水抑制、水質改善の効果検証とそれに基づく提言の実施

助成：米国コカ・コーラ財団

海外支援事業

バングラデシュ・スカイウォータープロジェクト



地下水のヒ素汚染や塩害により安全な飲み水の確保が難しいバングラデシュで、現地パートナー等を通じて雨水活用の普及を支援

現地パートナー
Skywater Bangladesh(SB) LTD.
<https://skywaterbd.com/site/>



特定非営利活動法人
雨水市民の会

www.skywater.jp



■事務局 〒131-0033 東京都墨田区向島 5-49-3
TEL & FAX: 03-6657-1416
E-mail: office@skywater.jp

下町 × 雨・みどりプロジェクト

PROJECT

Rain & Green Community

◆ 雨のゆくえをデザインし、水とみどりのある暮らしを楽しみませんか？



雨とみどりをまちに取り入れた「雨水小路」のアイデアスケッチ

気候変動が身近な課題となる中、現在都市部では、降る雨のおよそ半分が下水道に流れ込んでいます。集中豪雨時には、下水道で受けきれない雨が洪水の原因になったり、雨と汚水を一緒に流す合流式下水道地域では、河川・海の水質汚濁の原因ともなっており、その頻度は今後ますます増加が予測されます。

NbS (Nature-based Solutions= 自然を基盤にした解決策) の手法で、降る雨を一時的に蓄えるポケットを街中につくることがこのプロジェクトの目的です。雨を蓄え、みどりを育む一人ひとりの小さな積み重ねが、安全で心地よくらせるまちづくりにつながります。



関連する SDGs のゴール ▶

◆ 背景：ゼロメートル地帯での洪水対策と気候変動に備えた小規模雨水管理

雨を蓄え、ゆっくり流す

私たちが活動する東京都墨田区は、東京都東部の低地に位置し、周囲を河川や水路に囲まれています。1980年前後には、急激な都市化で地面がコンクリート等で覆われ、雨が浸み込みにくくなったことによる都市型洪水が頻発しました。その対策として、まちのあちこちで雨を蓄え、降雨の後にゆっくり流したり、水資源として活用する取り組みが始まりました。

行政による仕組みづくり

墨田区では、雨水貯留のための助成金制度（1995年）や条例（2006年）を制定しています。また、1990年代以降に建設された公共施設に雨水利用を導入しており、日本における地域主導型のNbS (Nature-based Solutions) の初期事例といえます。

雨の降り方に適応した雨水タンクの管理・運用

大雨の際、タンクがすべて空であれば、約26,000立方メートル分の雨水を受け止めることができます。しかし、現実にはそのような指導やルール作りは行われていません。今回のプロジェクトでは、雨水タンクによる下水道への負荷の低減を定量化し、近年の降雨パターンの変化や気候変動に適応する方策として、雨とみどりを組み合わせた小規模雨水管理手法を市民の間に広げることが目標です。

墨田区の雨水活用

雨水タンク
約 **760** カ所
総容量
約 **26,000** m³

2022年3月末現在

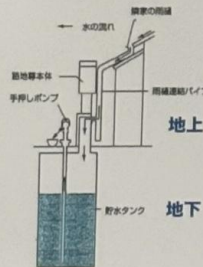
小型雨水貯留タンク 「天水尊（てんすいそん）」



コミュニティで共有する雨水貯留施設 「路地尊（ろじそん）」



路地尊の仕組み



NPO法人 雨水市民の会
People for Rainwater



THE
Coca-Cola
FOUNDATION

「下町 × 雨・みどりプロジェクト」は、NPO 法人雨水市民の会が米國コカ・コーラ財團からの助成を受けて、2022～2025 年に行うプロジェクトです。

